

木工品づくりに夢をのせて ～知的障がい者と共に歩む「北の夢木工」～

北の夢木工 代表 辻 礼次郎



■はじめに

「北の夢木工」は、代表の辻礼次郎さんが知的障がい者と一緒に働く小さな会社を作ろうとの強い思いの下に、10年前から活動を始めています。この木工房は決して大きくはない工房ですが、本当に真摯に木工品づくりに励んでいます。この度訪問する機会に恵まれましたので、辻さんの話された内容を紹介させていただきます（以下、辻さん談）。



■木工との関わり

私は以前、「美唄学園」という美唄市にある障害者施設に勤務してまして、その時に木工班で施設を利用している障害者（以下、利用者）と共に木工作业を通して社会参加し自信を持って出来ることがあればいいと木工に取り組んでいました。しかし、その木工班も施設の運営方針から廃止せざるを得なくなりましたので、木工しできない利用者はこの先が心配だとの思いがありました。そのようなこともあり、この利用者と将来も一緒に木工ができればいいなと考えた末に、施設を辞めて独立した木工房を開設する決心をしました。今は、この1名の施設利用者と作品づくりをしています。

コツコツと作品づくりをしています。その取り組みが認められたのかどうか分かりませんが、おかげさまで幾つかの賞及び認定をいただくことができました。その内容を少し紹介します。

平成22年 そらち信金基金 産業技術奨励賞受賞
平成22年 北の動物大賞展 奨励賞受賞
平成24年 木育マイスター
平成26年 「北の夢トレーラー」グッドトイ賞受賞

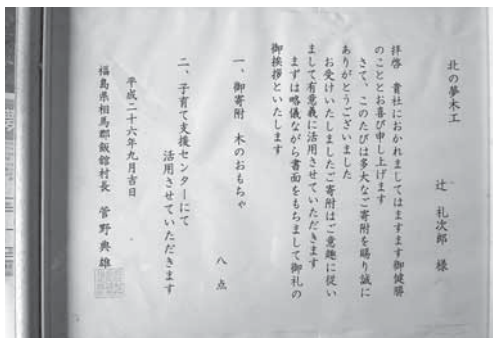
グッドトイ賞は、美唄学園の元指導課長（元大学教授）のオモチャコンサルタントの方がグッドトイ委員会に推薦してくれまして、この賞をいただくことができました。

次も機会があれば申し込みしたい気持ちもありますが、この申し込み規準が非常に厳しいので、今は断念せざるを得ない状況です。そのような厳しさがありますので、前回いただいた賞はなお一層の重みがあるのかと感じているところです。この賞をいただいてからは、グッドトイ関連業界のつながりで販売してくれており、それなりの高い価格で売ってもらえるようになりましたので、本当にありがたいことです。おかげさまで、今は月に十数台売れるようになりました。



このグッドトイ賞の作品を旭川の西武デパートで開かれた販売会に参加した折、ある一人の方がお声を掛けてくれました。その方は福島県相馬郡飯館村菅野典雄村長さんでした。後日、子育て支援センターで使うとのことでご注文をいただきました。震災復興に役立ちたいという気持ちがありましたので、八点多く作品を送ったところ、丁寧な感謝状も頂き心から感激しました。私のようなものが作った

品物が役立つのでしたら、機会がありましたら、また役立ちたいと思っています。



■「北の夢木工」とは

「美唄学園」障害者施設を56歳で辞めてから木工房を開設して作品づくりをし、現在私は66歳になります。

工房での作品を紹介したいと思います。製品は30種類ほどになります。販売は、地元美唄での美唄温泉「ピパの湯ゆ〜りん館」、美唄アンテナショップ「ピパ」です。他市町村では、旭川「木と暮らしの情報館」、札幌芸術の森「畑のはる」で展示していただいています。

作品に用いる木の種類は、ダケカンバ、ミズナラ、ウォールナット、センノキ、イチイ、サクラ、エンジュなどを使用していますが、作品は色々な木の色を組み合わせ考えてものもありますので、樹種は多様になっています。しかし、単一の木を使った方が合理的ですから、そのような作品も当然あります。

塗装は、子どもにも安全・安心な植物性オイル・オスモカラー（ドイツ製、食品衛生適合）を使用しています。原材料は、旭川市内の木材会社から入手しています。また、隣町の飛騨産業株式会社からも分けてもらっています。道産のダケカンバは適切な材が無いと言われることもあり、良質な道産材は入手しづらいときもあります。



■木工について考える

木工に対する考え方ですが、私は今まで木工しかやっていませんが、これからも障害者のために働きたい、一緒にやりたいと考えていまして、これは今後もずっと変わりません。しかしながら、やはり利益を出さなければこの工房も維持できませんので、冬場はシルバー人材センターからの除雪の仕事もしています。そのようなことで何とか維持できている状況です。

木工という仕事ですが、他の市町村を見ても若い人がいっぱいやっています。しかし、売れ方を見ていると生活できるレベルではないです。作品はある程度の金額で売らないと生活できません。生き甲斐という考えは勿論大事ですが、収入がないことには生活できません。ですから、良かろう安かろうではなく、適切な金額で売る必要があります。この点も理解して買っていただければ嬉しい限りです。

もう一つ言っておきたいと思いますが、旭川の知人で木のスプーンを作っている人がいまして、展示会などで販売しています。この方はすべて手作りです。販売する場所にもよりますが、安くないと売れないという状況もあります。そこで提案ですが、このような才能のある若い人を育て応援するイベントをやってもらいたいと考えています。木工関係者のみならず、行政や各試験場を交えた組織での取り組みは出来ないかと望んでいます。これは是非真剣に検討していただきたいです。



■こどもに喜ばれるために

作品は保育園などに使っていただいています。デザインや機能性について色々と言ってもらっています。というのは、実際にこどもに使ってもらって初めて分かることが多くあります。そのため、クレームを含めて言ってもらうことはありがたいことです。ただ、スタッフがいないので、少しずつは修正し

ますが、どうしても無理な場合があります。残念なことですが、仕方ありません。ですから、協力してくれるスタッフを探す必要もありますが、適任者は少なく、思うように進みません。協力者はいつでも大歓迎です。



■木工作品づくりの想いとこれから

木工作品は、先ほども申しましたが適切な価格で売る必要があると思っていますので、お客さまが良く言われる「木工クラフトはとても素晴らしいですけど、高いですよ」という言葉には、私は「高いけれど家につづらいいあってもいいんでないですか」と勧めています。というのは、「子供の創造性を働かせ、伸ばすためには必要ですよ」と思っているからです。



今後については、年齢が年齢だけに、一年一年今を励みにやっていきたいと思っています。現状では、組織力がないと障害者の援助ができないと思っていますので、指導員的な役割で一緒にしてくれる人を探していますが、なかなか見つかりません。また、障害者も個性がありますので、木工に対する特性を考えると向いている人はそんなにいません。養護学校でせっかく木工を学んだ子ですら、出ても働く場所がないんです。私のようなところでは、組織力がないために給料

を出せるか、生活が出来るかという問題があります。そこで、NPO、国、道を含めて細やかな援助が欲しいと考えているところです。

今後も木工作品づくりに取り組んでいきますが、北海道で木工をやっているの、針葉樹のトドマツ、エゾマツを使った製品を考えていかなければならないと思っています。今も、「動物トレーラー」ではエゾマツを組み合わせて使っています。しかし、ヤニなどの問題もあり扱いにくいのは確かです。以前に、他の木工者が針葉樹でワインの箱を作ったようですが、ワイン製造業者は関心を示さなかったようです。単一製品での針葉樹使用は、今までと違ったデザイン、用途を考えていかなければならないと思います。

おかげさまで頂戴したグッドトイ賞のように、認めていただける方、私の作品を使って喜んでいただける方がおりますので、これを励みに地道に納得いく作品づくりを続けるつもりです。今後とも応援よろしくお願ひ申し上げます。

(文責：北海道林産技術普及協会 植杉雅幸)